

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題(案)	課題(案)から整理した目指すべき方向性(案)
<p>【子育て支援】</p> <p>○課題 関係機関等との連携を強化し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない子育て支援に引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 安心して子どもを産み育てることができるよう、妊娠期から子育て期まで切れ目がなく、多様なニーズに応じたきめ細かな子育て支援を行います。</p> <p>○課題 安全・安心な子どもの居場所づくりを推進するため、引き続き、放課後児童会の活動スペースの確保や開設箇所の増設等を行い、良好な環境で全ての利用希望者を受け入れていく必要があります。 また、子どもの権利が保障され、主体的に活動できる環境づくりを推進するため、青森市子どもの権利条例に基づく意見表明・参加の権利を保障する機会の確保に引き続き取り組んでいく必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 放課後児童会や児童館等、子どもの活動拠点の利用希望者を良好な環境で全て受け入れるとともに、児童虐待等の相談対応、子育て親子の交流の場の提供や子育てに関する相談、子育て講座の開催等により、身近な地域の中で安全・安心に過ごすことができるよう子ども支援を行います。 また、子どもの権利の普及啓発や子どもが自主的に意見表明し社会に参加できる機会の提供等により、子どもが自ら考え、主体的に活動できる環境づくりを進めます。</p>	<p>○農業をしている人は朝が早い。青森市では農業が盛んだが、子どもを早朝から預かってくれる事業者は少ない。【第1分科会で出された意見】</p> <p>⇒【課題等に反映】</p>	<p>○本市における合計特殊出生率は国よりも低水準であり、また、近年の非婚化・晩婚化、若年層の市外流出による子どもを産む世代の減少などが相まって出生数が減少しています。</p> <p>○女性の社会進出や夫婦共働き世帯の増加等、働き方の多様化に伴い、子育てのニーズも多様化しています。</p> <p>○障がいのある子どもやひとり親家庭等の保健・福祉・就労など様々な支援を必要としている人が増えています。</p> <p>○核家族化や地域内のつながりの希薄化などにより、子育て家庭が不安や悩みを抱え、孤立しやすい状況になっています。</p> <p>○子どもを取り巻く社会環境が変化している中で子どもが安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、子どもの居場所づくりを推進することが重要となっています。</p> <p>○体験活動は子どもの心の成長にとっても大切であるが、少子化の進展、家庭や地域社会の教育力の低下などの様々な問題が指摘される中、子ども同士の交流を通じた生活体験やボランティアへの参加などの体験活動が不足しています。</p> <p>○子どもを取り巻く様々な課題（いじめ、児童虐待等）を解決するため、「子どもの権利」を正しく理解し、認知を広げていくことが重要となっています。</p>	<p>○子どもは未来を担う大事な人財であり、子どもを安心して産み育てることができるよう、関係機関等との連携を強化し、妊娠期から子育て期まで切れ目なく、多様なニーズに応じたきめ細かな子育て支援を行います。</p> <p>○国の子育て支援と連動し、子育て支援への取組を強化していきます。</p> <p>○障がいのある子どもやひとり親家庭など特別な支援が必要な子ども・家庭に対する支援などに取り組みます。</p> <p>○身近に相談できる者がいないなど、子育て家庭の孤立感や不安の軽減を図るため、妊娠期から子育て期まで切れ目なく、多様なニーズに応じたきめ細かな子育て支援を行います。</p> <p>○子どもの居場所となりえる場所での多様な体験・活動機会の充実を図るとともに、環境整備に努めていくほか、身近な地域の中で安全・安心に過ごすことができるよう子ども支援を行います。</p> <p>○子どもの権利の普及啓発や子どもが自主的に意見表明し社会に参加できる機会の提供等により、子どもが自ら考え、主体的に活動できる環境づくりを進めます。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>○課題 学校環境の整備（トイレの洋式化率）については、各年度とも目標値を超えることができましたが、引き続き、学校施設の老朽化対策と併せて計画的に取り組む必要があります。 また、「GIGAスクール構想」実現のため、1人1台端末や高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する等、安全・快適で質の高い教育を受けることができる教育環境づくりに引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 少子化を背景とした児童生徒の減少や学校施設の老朽化が進行していることから、適正な学校規模の確保や学校施設等の老朽化に対する取組を継続するとともに、安全・快適かつ質の高い教育を受けることができる環境づくりを進めます。</p> <p>○課題 ICTの効果的な活用法について、更なる工夫が必要です。</p> <p>○目指すべき方向性 確かな学力を身に付けさせるため、「指導と評価の一体化」を重要視しながら、「個別最適な学び」、「協働的な学び」につながるよう、学校訪問や研修講座等を活用しながら指導助言に努めてまいります。</p> <p>○課題 子どもを取り巻く諸問題が多様化・複雑化している中、いじめ防止や教育相談の充実、ネットトラブルによる犯罪被害抑止の実績値は、いずれも前年度に比べ、増加傾向にあります。</p> <p>○目指すべき方向性 今後も全ての子どもが安心して学ぶことができるよう、端末を活用した教育相談の充実や各学校における教育支援のより一層の充実を図ってまいります。</p>	<p>○chromebookの活用が充実していく中で、コンピュータに依存しすぎないように気を付けなければならぬ。 ⇒【課題等に反映】</p> <p>○障がいのある子どもや医療的ケア児への支援も視野に入れた取組が必要。 ⇒【課題等に反映】</p>	<p>○校舎の築年数が30年以上の学校が大半を占めており、学校施設等の老朽化が進行していることから、引き続き、学校施設の老朽化対策に計画的に取り組むことが重要となっています。</p> <p>○ICT教育等、快適で質の高い教育を受けることができる教育環境づくりが重要となっています。</p> <p>○少子化を背景とした児童生徒数の減少に伴い、複式学級を有する学校がある一方で、宅地開発等に伴い児童生徒数が増加している学校があるなど、地域によって異なる教育環境が生じています。</p> <p>○技術革新やグローバル化が進む社会の中で、ICTの効果的な活用法を更に工夫する等、これまでの教育内容・方法の改善や、新しい教育内容・方法の開発等の実践が重要となっています。</p> <p>○学校がさまざまな課題を抱える中で、地域全体で児童生徒の学びや成長を支えていくことや、児童生徒の発達や学びの連続性を保障することが重要となっています。</p> <p>○子どもを取り巻く諸問題が多様化・複雑化している中、いじめ防止や教育相談の充実、ネットトラブルによる犯罪被害抑止の実績値は、いずれも前年度に比べ、増加傾向にあります。</p> <p>○障がいのある子どもや医療的ケア児等、教育上特別な支援を必要とする児童生徒も増加傾向にあります。</p>	<p>○児童生徒の安全・安心を確保しつつ、新しい時代の学びを提供するため、教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備について、学校の改築や改修等により計画的かつ効率的に進めます。</p> <p>○児童生徒一人一人が、一定の集団の中での活動を通じて資質や能力を伸ばすことができる適正な学校規模の確保など、多様化・複雑化する教育ニーズに応じてきめ細かな指導が行き届く望ましい教育環境の確保を図ります。</p> <p>○学校と社会の連携を図りながら、9年間の円滑な学びを通じて、1人1台端末等を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図ることにより、知識・技能、思考力・判断力・学びに向かう力、人間性等の確かな学力を育成するとともに、多様な児童生徒の状況に応じた学びを推進します。</p> <p>○いじめや不登校、障がいや医療的ケア児、日本語能力、特異な才能、複合的な困難等の多様なニーズを有する子どもたちに対応するため、社会的包摂の観点から個別最適な学びの機会を確保するとともに、一人ひとりの能力・可能性を最大限に伸ばす教育の実現に取り組めます。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>【スポーツ】</p> <p>○課題 誰もが気軽にスポーツ活動に参加できる機会の充実や、市民がスポーツ活動に取り組みやすい環境づくり等を通じて、スポーツ人口の拡大に引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 スポーツ人口の増加に向け、スポーツ振興施設等の適切な運営管理や2026年の国民スポーツ大会開催に向けた青森市営野球場改修等の機能整備のほか、各施設を活用したスポーツ教室の実施等により、年間を通じて、市民誰もがスポーツに親しめる環境づくりを進めます。</p> <p>○課題 スポーツコミッション青森との連携による本市のスポーツ資源を活用したスポーツツーリズムの推進や、市民のスポーツへの関心を高めるための活動等を通じて、より一層スポーツによる地域活性化に取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 地域活性化に向けて、ダンスを生かしたスポーツ振興、スポーツ大会・合宿誘致支援、地域のプロスポーツクラブとの交流連携を実施する等、スポーツを通じた交流人口の拡大を図ります。</p> <p>○課題 2026年に開催される第80回国民スポーツ大会に向けて、優秀な指導者の発掘・育成や、小・中学生及び高校生を対象としたスポーツ大会の支援等を通じて、より一層競技力の向上に取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 競技力の向上を図るため、本市スポーツ振興の中心的役割を担う（一財）青森市スポーツ協会への支援の継続等、官民連携による選手の育成と指導者の確保の拡充を図ります。</p>	<p>○部活動が地域のクラブ等への移行が進み、保護者による送り迎えが必要になると、子ども達がスポーツに触れ合う機会が減ってしまうので、なるべく学校施設を使うようにしてほしい。</p> <p>○民間の方に指導をお願いすることで、教育的要素が薄まり、勝敗にこだわる傾向となってしまうのは避けなければならない。</p> <p>⇒【上記2点を1つの課題等として反映】</p>	<p>○市民の健康増進や体力向上のほか、余暇時間の増大やライフスタイルの変化などに伴うスポーツ活動に対するニーズの多様化に対応するため、子どもから高齢者、障がいのあるかたなど、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりが重要となっています。</p> <p>○2026年には第80回国民スポーツ大会が青森県で開催されるなど、今後、本市でも、スポーツに対する関心が高まっていくものと考えられます。</p> <p>○本市は、市総合体育館や屋内グラウンド、スポーツ広場、浪岡総合公園など、スポーツに親しめる環境は充実しているものの、施設の老朽化への対応や、人口減少をはじめとする社会環境の変化や市民ニーズなどに応じた機能整備が重要となっています。</p> <p>○スポーツと地域資源を活用することにより、地域活性化につなげようとする取組が全国で広がってきています。</p> <p>○本市を活動拠点とするプロスポーツクラブ等の活動が盛んになっており、市民一体となって応援する機運を醸成することが重要となっています。</p> <p>○運動部活動の地域移行が進む中で、指導者や活動場所の確保等が重要となっています。</p> <p>○国内外の大規模な大会等において、本市出身、本市ゆかりの選手が活躍することは、スポーツへの関心などを高め、スポーツ人口の裾野拡大につながります。</p> <p>○優秀な選手の育成に向けて、選手の多様なニーズに対応できる指導者の確保が重要となっています。</p>	<p>○年間を通じて、誰もがスポーツに親しめる環境づくりを進めることで本市のスポーツ人口を増加させます。</p> <p>○本市の地域資源とスポーツを融合させたスポーツツーリズムの推進など、スポーツを通じた交流人口の拡大などにより、地域活性化を図ります。</p> <p>○健やかな心身の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成を図るため、地域と連携して運動部活動改革の推進と身近な地域における子どものスポーツ環境の整備充実を図ります。</p> <p>○スポーツ人口の裾野拡大に向けて、ジュニア世代をはじめとする各世代の選手の育成や、専門的な知識・技術を有する指導者の確保に努めます。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>【健康づくり】</p> <p>○課題 がんの標準化死亡比において、依然として全国水準より高い状況にあることから、がん検診の受診促進に向け、一層取り組むほか、ヘルステックを核とした健康まちづくりの推進や健康寿命延伸のための「がん対策」「たばこ対策」「肥満・糖尿病対策」、特定保健指導の利用勧奨や、地域における自殺対策等により市民の更なる健康寿命の延伸に向けて、引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 市民の更なる健康寿命の延伸に向け、市民のヘルスリテラシーの向上を図り、生活習慣病の予防と各種健康診査・がん検診等の受診率向上等に戦略的に取り組むとともに、自殺の予防を含めたこの健康づくりを進めます。</p> <p>○課題 新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化等を踏まえた、健康教育や研修会等を実施するとともに、感染症が発生した場合には、医療機関等との連携のもと、迅速かつ的確な対応ができるよう、日頃から備えておく必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 市民に対して感染症に関する正しい知識の普及啓発を推進するとともに、定期健康診断や各種定期予防接種を実施する等、感染症の予防対策を継続的に実施します。また、感染症の発生状況の調査、分析、検査等により、まん延の状態等を把握し、適時適切な情報提供を図り、迅速かつ的確なまん延防止の措置等を実施するよう努めます。</p>	<p>○全国的に見て青森県は自殺者が多いということが報道されている。</p> <p>⇒【課題等に反映】</p> <p>○30代・40代になると運動不足になりがちなので、運動を始めるきっかけづくりが重要。</p> <p>○地域で行う健康づくり活動について、コロナ禍以前ほど人が集まらないという悩みがある。</p> <p>⇒【上記2点を1つの課題等として反映】</p> <p>○新型コロナに感染した場合の対応方法がまだ市民に浸透していない。</p> <p>⇒【課題等に反映】</p>	<p>○がんや糖尿病の標準化死亡比及び自殺による死亡率が依然として全国水準より高い状況にあることから、市民の更なる健康寿命の延伸に向けて、引き続き取り組むことが重要となっています。</p> <p>○働き盛り世代の運動習慣が減る傾向にあることから、気軽に運動できる機会づくりが重要となっています。</p> <p>○本市の平均寿命は、2020年では男性79.9歳、女性86.2歳と、ともに全国市区町村の中でも依然下位に位置する状況にあります。</p> <p>○難病に関する相談件数は、2021年が124件、2022年が102件と減少していますが、国の難病の患者に対する医療等に関する法律（難病法）に基づく指定難病は年々増加しており、現在338疾患が指定を受けています。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえての感染症の予防やまん延防止に向けて、迅速かつ的確に対応することが重要となっています。</p> <p>○本市の結核罹患率は、東北地方の中でも高い状況にあり、結核患者の約7割は65歳以上のかたで占められています。</p>	<p>○市民の更なる健康寿命の延伸に向け、働き盛り世代を始めとする市民のヘルスリテラシーの向上を図り、食生活や運動習慣等による生活習慣病の予防と各種健康診査・がん検診等の受診率向上等に戦略的に取り組むとともに、自殺の予防を含めたこの健康づくりを進めます。</p> <p>○難病患者が地域で安心して生活できるように、市民に対して、難病に関する正しい知識の普及啓発を推進するとともに、相談支援体制の充実に努めます。</p> <p>○日頃から市民に対して感染症に関する正しい知識の普及啓発を推進するとともに、医療機関や関係機関と連携体制を構築し、新たな感染症の発生に備えます。新たな感染症が発生した場合は、感染症の発生状況の調査、分析、検査等により、まん延の状態等を把握し、適時適切な情報提供を図ります。</p> <p>○市民に対して結核に関する正しい知識の普及啓発を促進するとともに、結核の予防、早期発見・早期治療につなげ、まん延防止に努めます。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題(案)	課題(案)から整理した目指すべき方向性(案)
<p>○課題 市民病院では、平時からの感染症対応に取り組むとともに、安全で良質な医療の提供と信頼される病院を目指して病院機能の改善に取り組むほか、青森県と青森市の共同経営・統合新病院整備について、2022年8月に取りまとめた「共同経営・統合新病院整備に係る基本的事項」に従い、2023年度中を目途に、共同経営・統合新病院に係る基本構想・計画を策定する必要があります。</p> <p>浪岡病院では、訪問診療やオンライン診療等も継続しつつ、地域のかかりつけ医として、また、「ヘルステックを核とした健康まちづくりプロジェクト」の拠点としての機能をより発揮できるように取り組んでいく必要があります。</p> <p>感染症対策を講じつつ、必要な方に必要な医療が提供できるよう、適時適切な受診行動ができる環境づくりや救急医療体制の充実を図る必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 必要なときに安心して適切な医療を受けることができる環境づくりを進めます。</p>		<p>○感染症対策を講じつつ、必要な方に必要な医療が提供できるよう、適時適切な受診行動ができる環境づくりや救急医療体制の充実が重要となっています。</p> <p>○市民病院は、地域において急性期医療や政策医療の基幹的役割を担っていますが、医療従事者不足をはじめ、施設の老朽化・狭隘化、経営基盤の強化、新興感染症等へ対応する必要があります。</p> <p>○二次・三次救急医療機関で軽症者や初期救急患者が受診している実態があります。</p>	<p>○必要なときに安心して適切な医療を受けることができる環境づくりを進めます。</p> <p>○市民病院では、県立中央病院との統合を推進することなどにより、将来的に持続可能な医療提供体制を構築します。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>【障がい者福祉】</p> <p>○課題 三世代が障がいのあるかたで構成される世帯の虐待事案等、複雑な課題のケースが増加していることから、より一層、地域の相談支援事業所との協力体制を築き、障がいのあるかたや家族等を支援することにより、障がいのあるかたのニーズに応じた福祉サービスが受けられるよう、地域で安心して暮らしができる環境づくりに取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 相談支援体制の充実に向け、市が委託する相談支援事業所や特定相談支援事業所等の地域の協力体制の構築を進めるとともに、その取りまとめ役となる相談支援の中核的役割を担う基幹相談支援センター機能の整備について検討等を行い、相談支援体制の充実・強化を図り、障がいのあるかたのニーズや特性に応じたきめ細やかな障害福祉サービスを提供します。</p> <p>○課題 障がいのあるかたの自立した生活を確保するために、障がい者雇用の促進、外出時の移動等の支援となる行動援護等及び意思疎通の支援となる手話通訳者等の養成等に引き続き取り組む必要があります。 また、障害者差別解消法の一部を改正する法律が2024年4月1日から施行され、障がいのあるかたに対する事業所の合理的な配慮の提供が義務化されることから、事業者に対する周知啓発や支援に取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 障がいのあるかたのニーズや特性に応じた就労の促進、障がいの有無に関わらず誰もが互いに意思を伝え合い、理解し合える意思疎通支援、障がいの特性に応じた外出時における移動支援等、障がいのあるかたが積極的に社会参加できる環境づくりを進めます。</p>	<p>○障がいがあるかたを見かけると、邪魔しないでおこうとして避けたりとか、あの人は可哀想な人だねと逃げたりすることがすごく見受けられる。 ⇒【課題等に反映】</p> <p>○障がいのある子どもは年々増加傾向にあり、今後ますます増えていくだろう。</p> <p>○高齢の障がいのある方も増えてきている。</p> <p>○相談件数が増えていないのであれば、なぜ増えていないのか考える必要がある。 ⇒【上記3点を課題等に反映】</p>	<p>○障がい及び障がいのあるかたに対する市民の理解を深めることが重要となっています。</p> <p>○障がいのあるかたの高齢化による障害程度の重度化や、障がいのある児童の増加、また、複雑・多様化するケースが増加しています。</p> <p>○市内の民間企業などで雇用されている障がいのあるかたは増加傾向にありますが、障がいのあるかたの就労意欲が高まっている中、障がいのあるかたの雇用環境づくりが重要となっています。</p>	<p>○障がいのあるかたが地域で安心して暮らせるよう、障がい及び障がいのあるかたへの市民の理解を深めるとともに、障がいのあるかたのニーズや特性に応じたきめ細かな相談や支援を提供できる体制の強化を図ります。</p> <p>○障がいのあるかたの自立した生活を確保するため、障がいのあるかたのニーズや特性に応じた就労の促進や積極的に社会参加できる環境づくりを進めます。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>【高齢者福祉】</p> <p>○課題 一人暮らし高齢者世帯の増加や認知症高齢者の増加等の現状を踏まえ、地域包括支援センターや各種団体等と連携し、介護予防・生きがいづくりの推進や地域包括ケアの推進に係る各種事業の推進により、高齢者が住み慣れた地域で安心して自立した暮らしができるとともに、生きがいを持って社会参加できる環境づくりの整備に引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 高齢者が住み慣れた地域で安心して自立した暮らしができるとともに、医療、介護、介護予防、住まい及び日常生活の支援が包括的に確保され、生きがいを持って社会参加できる環境づくりを進めます。</p> <p>○地域ケア会議（ケアプラン検証会議）やケアマネジメント研修等の自立支援・重度化防止に資するケアマネジメント支援のほか、地域密着型サービスの整備の促進等により、介護を必要とする高齢者が介護保険サービスを安心して利用できる環境づくりに引き続き取り組む必要があります。</p> <p><参考>目指すべき方向性 各日常生活圏域の特性を踏まえ、介護を必要とする高齢者が介護保険サービスを安心して利用できる環境づくりを進めます。</p>	<p>○認知症で徘徊する方がこれから増えてくるだろう。 ⇒【課題等に反映】</p> <p>○まちづくり協議会という活動をしている中で、町会の役員にはなりたくないという市民のかたがいて、50代60代だけれども退職されてまだまだ元気なかたという人もいます。そういった人達が気軽に参画してもらうようなことがこれから必要になってくるのではないかと。 ⇒【「第3分科会」の「市民協働」分野で整理】</p> <p>○介護士が不足していてサービスが受けられないということが起こり得る。 ⇒【課題等に反映】</p>	<p>○我が国の高齢化率は、2020年で28.6%に達し、高齢化が急速に進展しているとともに、平均寿命は、2020年で男性81.56歳、女性87.71歳と年々伸び、今後も延伸していくことが見込まれています。また、本市の高齢化率は、2020年で32.2%と全国平均よりも高くなっています。</p> <p>○一人暮らし高齢者世帯や認知症高齢者の増加が見込まれる中であって、いつまでもその人らしく安心できる環境づくりが重要となっています。</p> <p>○介護を必要とする高齢者が介護サービスを安心して利用できる環境づくりを進めていくことが重要となっています。</p> <p>○高齢化の進展に伴い介護ニーズが増加する一方、現役世代の人口減少に伴い介護人材の不足が見込まれます。</p> <p>○要介護等認定者が増加傾向で推移しており、介護保険事業に要する費用は年々増加しています。</p>	<p>○高齢者が住み慣れた地域で安心して自立した暮らしができるとともに、医療、介護、介護予防、住まい及び日常生活の支援が包括的に確保され、社会参加できるよう、地域包括ケアシステムの更なる充実を図ります。</p> <p>○認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で暮らし続けていくための取組として、認知症バリアフリーの推進や社会参加活動の促進を図ります。</p> <p>○介護を必要とする高齢者が住み慣れた地域で介護サービスを安心して利用できるよう、サービス提供体制の確保を図ります。</p> <p>○高齢者が健康を保ち、いきいきと自分らしく暮らし続けることができるよう、介護予防・重度化防止に主体的に取り組むことができる環境づくりを進めます。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>【男女共同参画】</p> <p>○課題 カダール（男女共同参画プラザ）等を拠点として男女共同参画に関する啓発講座や情報発信等を行うとともに、男女共同参画情報紙「アンジュール」や小・中学生向け啓発小冊子等の媒体を通じて、引き続き、男女共同参画の理解促進に取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 全ての人互いに支え合いながら対等に参画できる、男女共同参画社会の形成を促進します。</p>		<p>○性別による固定的な役割分担意識などの構造的な課題の解消に向け、女性活躍の機運を醸成するとともに、男女ともにライフイベントとキャリア形成を両立できる環境づくりが重要となっています。</p>	<p>○全ての人互いに支え合いながら対等に参画できる、男女共同参画社会の形成を促進します。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>【地域防災・克雪対策】</p> <p>○課題 市民の防災意識を高めるため、自主防災組織未結成町（内）きるよう、地域防災をサポートする人材の育成支援を行うことにより、新たな自主防災組織の結成に引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 市域全体の総合的な防災力の維持・向上に向け、自主防災組織による地域防災活動を推進し、地域防災体制の強化を図ります。</p>	<p>○青森県でいうと防災意識がある人は3割ほどということで、意識がある人が少ないという話を聞いたことがある。我々で一度、青森大学をお借りして防災訓練をやったことがあるが、集まる方はほぼいない状況だった。</p> <p>○防災について、町会の自主防災組織結成率が低い。空白地区の町会の方も関心はあるがどうしたらいいかわからないので、市からの積極的な働きかけをしてほしい。【第3分科会で出された意見】</p> <p>○市民の方々が災害について熟知していないものもあり、特に家にいるお母さん、お子さんに、災害に関する知識を覚えてほしいので、市民に指導する場を設けてほしい。【第3分科会で出された意見】</p> <p>○自主防災組織のある地区は、防災士会の支部と一緒に、地区の学校の防災訓練に参加したり、子どもたちにもいろいろなお話をしたり、実際に体験させていただいたりすることもあるが、未組織地区に対しては防災士会で活動がないため、市において市民に対する防災知識の周知徹底に取り組んでほしい。【第3分科会で出された意見】</p> <p>○江戸川区は、建設業協会と建築士会と事務所協会の資格者がそれぞれ避難所の小中学校109の担当を決め、震度5強以上の地震があった時には、連絡を待たずにそこに行くことを決めており、毎年の訓練により、その地域の方とその地域の専門家の顔合わせができる。子どもは学校で災害に関する勉強をしているが大人はできてないので、普段から訓練を行う必要がある。【第3分科会で出された意見】</p> <p>○川が増水した時や決壊した時、あるいは地震、火災等、どこにどう逃げていいかわかってない。どういうケースでどこに逃げるかということを知りたいので、講習会等を実施し情報共有を進めてほしい。【第3分科会で出された意見】</p> <p>○市に依頼して、町会の地区ごとに、一般の市民を対象に勉強会を積極的にやっているが、まだまだ避難場所が分からない人が多い。もう少し積極性に取り組んでほしい。【第3分科会で出された意見】</p>	<p>○近年、全国各地で発生している大規模地震や集中豪雨とそれに伴う土砂災害、予期せぬ降雪による被害など、全国的に大規模な自然災害が多発しており、平時から災害に備えるためにも、市民の防災意識を高めることが重要となっています。</p> <p>○自主防災組織未結成町会が自主的に防災活動に取り組むことができるよう、適切な支援や情報提供等により、新たな自主防災組織の結成に引き続き取り組むことが重要となっています。</p>	<p>○災害時には自らの命は自らが守る「自助」及び地域住民が協力して助け合う「共助」による地域の防災力強化に向け、市民の防災意識の向上を推進します。</p> <p>○市域全体の総合的な防災力の維持・向上に向け、自主防災組織結成のための働きかけ及び防災訓練や防災講話等を通じた既存組織の育成・強化を推進します。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>○課題 市民の雪対策への関心が高いことや、今後の人口減少の進展を踏まえ、これまでの取組に加え、除排雪体制の効率化・省力化に向けた調査・研究を行い、効果的・効率的な除排雪の推進を図る必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 地域・除排雪事業者・行政が連携し、効果的・効率的な除排雪を推進するとともに、市民が共に支え合い助け合う持続可能な雪対策を推進します。</p>	<p>○地域での除雪を担う人がいつまで続けることができるかわからない。</p> <p>○除雪ボランティアは、青森市社会福祉協議会でボランティア制度があり、活動するとポイントが付与され、ポイントに応じて何かに交換できるものがあるので、それももっとPRすべき。【第3分科会が出された意見】</p> <p>○互いに助け合うような近隣との付き合いは大切。地域での絆みたいなことは考えたいけど、面倒くさいと思っている人もいるので、近所付き合いを透明化し、付き合いやすいような仕組みがあればいい。【第3分科会が出された意見】</p> <p>○防災の視点からも、近隣の人たちがどういう人たちなのかを把握しているだけで全然違うと思う。【第3分科会が出された意見】</p> <p>⇒【これらを課題等に反映】</p>	<p>○人口減少や高齢化の進展等に伴い、地域における除雪の担い手の減少や、自力で雪処理を行うことが困難な世帯の増加が見込まれます。</p>	<p>○地域やボランティア団体と連携し、地域で市民が共に支え合い助け合う持続可能な雪対策を支援します。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>【その他】</p> <p>○課題 図書館や市民センター等の施設において、新型コロナウイルス感染症の影響で減少した入館者数や事業参加者数の回復に向けた取組とともに各事業を進めていく必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 引き続き、生涯を通じた学習活動と学習成果を活かす環境の充実、多様な主体との連携、青少年の健全育成支援に取り組んでいきます。</p> <p>○課題 今後も市民が文化芸術に身近に触れ合う環境づくり等に引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 様々な事業を実施し、市民が文化芸術と今まで以上に身近に触れ合うことができる環境づくりを図ります。</p> <p>○課題 文化芸術について子どもたちの関心を喚起し、後継者の育成を図り、次世代へ継承する取り組みを行う必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 子どもの創造性を高める取組や伝統芸能に対する理解、地域の歴史を伝えていく取組を進めます。</p>	<p>○音楽の指導ができる方というのは、スポーツと違って外部の方がほとんどいなくて、学校の先生が主にやっているということで、外部の方を入れるのはかなり難しい。</p> <p>⇒【課題等に反映】</p> <p>○文化で総合的にいろんなアーティストを育成していくとかのベンチマークが全然欠けている気がする。まずはそこから全部見直さないといけない。〈第3分科会で出された意見〉</p> <p>○人材も育成し、それを実際に雇用とかビジネスにつなげていく、いわゆるコンテンツビジネスみたいなことも含めたものにどう発展させていくか。それが、このまちの新しい特産になるんじゃないかと前から思っていた。〈第3分科会で出された意見〉</p> <p>⇒【上記2点を課題等に反映】</p>	<p>○人生100年時代を見据え、全ての人のウェルビーイングの実現のため、高齢者を含めた全ての人々が生涯にわたって活躍し、地域の活性化に貢献していく社会の構築が重要となっています。</p> <p>○グローバル化や情報化の進展に伴い、青少年を取り巻く社会環境が大きく変化している中で、国際社会の一員である自覚を持った人材の育成が重要となっています。</p> <p>○共働き家庭やひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化などにより、社会生活等を営む上で困難を有する若者に対する支援が重要となっています。</p> <p>○市民の文化芸術活動については、高齢化の進展、人口減少などを踏まえ、次世代の文化芸術の担い手確保・維持が重要となっています。</p> <p>○文化部活動の地域移行が進む中で、指導者の確保や活動場所の確保等が重要となっています。</p> <p>○本市はねぶたや版画など、文化芸術資源に恵まれているが、将来の担い手や後継者の育成が少なく、次世代へ継承することが難しくなっています。</p> <p>○無形民俗芸能・伝統芸能を継承する人材及び団体が減少しています。</p>	<p>○誰もが生涯にわたり、興味や必要に応じて、知識や技能を学び、地域や社会で活かすことができる学習環境の充実を図ります。</p> <p>○他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や豊かな語学力、異なる文化・価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力、国際貢献の精神等を身に付け、国際社会の一員として活躍できる人材を育成します。</p> <p>○「NPOや企業、地域団体等との連携・協働により、学校外の多様な担い手による多様な学びの提供や多様な支援体制の確保を図り、地域と一体となった活動を推進します。</p> <p>○年齢や障がいの有無にかかわらず、全ての市民が、生涯を通じて文化芸術を鑑賞したり、体験したりすることにより、心豊かな人生を送ることができる環境や機会の創出等を進めます。</p> <p>○健やかな心身の育成、文化芸術を通じた豊かな心身の育成を図るため、地域と連携して文化部活動改革の推進と身近な地域における児童生徒の文化芸術環境の整備充実を図ります。</p> <p>○郷土の文化を受け止め、それらを継承・発展させるため、体験機会の確保や次世代を担う若者の育成に取り組めます。関係機関との連携・協力を図りつつ、文化芸術について、子どもたちの体験機会を確保する取組を進めます。</p> <p>○無形民俗芸能・伝統芸能に対する理解、地域の歴史を伝えていく取組を進めます。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>○課題 今後も交通事故のない安全で住みよい地域社会づくりを進めるため、より効果的な交通安全啓発活動を検討しながら、関係機関・団体との連携を強化し、交通安全啓発活動を実施していく必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 幼児から高齢者までの各世代に応じた交通安全意識の啓発と市民の参加・協働による交通安全活動を推進するとともに、交通安全施設等の充実を図ります。</p> <p>○課題 今後も地域の安全・安心を守っていくために関係機関・団体との連携を強化し防犯活動の展開、地域の防犯意識の高揚が必須であり、警察、行政、市民が一体となった防犯活動を実施していく必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 人口減少社会による地域防犯活動団体の担い手の減少に対応するため、防犯カメラの設置拡充を図るとともに防犯に関する広報活動や警戒活動等を展開し、地域の防犯意識の高揚を図ります。</p> <p>○課題 高齢化・単身世帯化等の社会経済環境の変化や近年のデジタル化の進展に伴う悪質商法の手口の巧妙化のほか、成年年齢引下げ後の18歳、19歳の若い世代を狙った詐欺等、多様化・複雑化する消費者トラブル等による被害の未然防止・拡大防止のため、引き続き消費者教育・周知啓発活動及び相談業務を実施する必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 消費者教育・啓発活動を推進するとともに、消費者の安全・安心の確保を図ります。</p>	<p>○地域での防犯活動の担い手の高齢化が進んでおり、活動が減っている。 ⇒【課題等に反映】</p>	<p>○近年、交通事故の発生件数自体は減少傾向となっているものの、高齢化の進展に伴い、高齢者が被害者または加害者となる事故が顕著となっています。</p> <p>○地域の安全・安心を守る地域防犯活動団体の担い手の減少・高齢化が進んでいます。</p> <p>○刑法犯認知件数は増加傾向にあり、犯罪の巧妙化・悪質化による被害が社会的な問題となっています。</p> <p>○高齢化・単身世帯化等の社会経済環境の変化や近年のデジタル化の進展に伴う悪質商法の手口の巧妙化のほか、成年年齢引下げ後の18歳、19歳の若い世代を狙った詐欺等、消費者トラブルによる被害が多様化・複雑化しています。</p>	<p>○幼児から高齢者までの各世代に応じた交通安全意識の啓発と市民の参加・協働による交通安全活動を推進するとともに、交通安全施設等の充実を図ります。</p> <p>○人口減少社会による地域防犯活動団体の担い手の減少に対応するため、効果的な犯罪の未然防止を図るとともに、防犯に関する広報活動や警戒活動等を展開し、地域の防犯意識の高揚を図ります。</p> <p>○消費者教育・啓発活動を推進するとともに、消費者の安全・安心の確保を図ります。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>○課題 青森市DV相談支援センターの周知度が上がり、相談件数が増加していることから、引き続き、DV被害相談者の支援に取り組む必要があります。 また、在宅の障がいのあるかたに対し生産活動の場や社会的交流の機会の提供、相談業務を総合的に行う地域活動支援センターへのはたらきかけを通じて、障がいのあるかたと地域住民との交流の機会の提供に引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 年齢や国籍、障がいの有無等に関係なく、誰もが社会の一員として互いを尊重し、認め、支え合い、共に生きる社会の形成を図ります。</p> <p>○課題 昨今の世界情勢を踏まえ、平和の尊さを、市民、特に若い世代に伝えることにより、平和意識の醸成に引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 引き続き事業を実施し、平和の尊さを、市民、特に若い世代に伝えていきます。</p> <p>○課題 今後、更に人口減少・少子高齢化が進展することが見込まれる中、高齢者や障がい者、子ども、生活困窮者等、地域において支援が必要な方を支えるため、地域福祉の担い手の育成・確保に取り組むとともに、地域住民が活動しやすい環境づくりの推進のため、老朽化が進む福祉館の建て替えに引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 PDCAサイクルに基づくボランティアポイント制度の見直しや、民生委員・児童委員充足率向上に向けた継続的な周知・啓発活動等を通じ、地域福祉の担い手の確保・地域の身近な相談体制の充実に努めるとともに、福祉館の建て替えによる地域活動を支える拠点の環境づくりを進め、地域で支え合い・助け合う体制の充実を図ります。</p>	<p>○体の不自由な人は、雪があると災害が起きたときに逃げるのが困難なので、自主防災組織や防災士会の方で地域における弱者の方々の避難方法とか考慮しているものの、組織的にきちんとした形で把握し、町会が中心となって助けに行く等の仕組みを作ってほしい。＜第3分科会で出された意見＞</p> <p>○例えば学生を除雪ボランティアとして取り入れて進めたら、多分だいぶ違うのではないかと。＜第3分科会で出された意見＞</p> <p>○学生の除雪ボランティアは地域によってあまり進んでいないところもある。＜第3分科会で出された意見＞</p> <p>⇒【上記3点を課題等に反映】</p>	<p>○技能実習生や留学生等の在留外国人が約1,300人居住しており、まちで外国人を見かけることや、地域社会でも異文化に接する機会が増えていることから、多文化共生の環境づくりが重要となっています。</p> <p>○本市の魅力を国内外に発信し、地域の活性化につなげていくことが重要となっています。</p> <p>○昨今の世界情勢を踏まえ、平和の尊さを、市民、特に若い世代に伝えることにより、平和意識の醸成に引き続き取り組む必要があります。</p> <p>○戦争を知る世代が減少する中で、青森空襲があったという事実を風化させないため、平和の大切さを次世代に継承していくことが重要となっています。</p> <p>○今後、更に人口減少・少子高齢化が進展することが見込まれる中、高齢者及び障がい者、子ども等、地域において支援が必要な方を支える地域福祉に対する支援体制の確保が重要となっています。</p> <p>○人口減少・少子高齢化の進展・地域や家庭等における人と人とのつながりの弱まり、社会的孤立や貧困などが大きな社会問題となっており、地域住民同士の支え合う意識の向上や複雑多様化する地域課題へ対応する環境づくりが重要となっています。</p>	<p>○県や関係団体等と連携し、在留外国人が地域社会の一員として、安心して暮らせる環境づくりを進めるとともに、市民の国際交流・国際理解を促進し、国際感覚の醸成を図ります。</p> <p>○平和の尊さを、市民、特に若い世代に伝えていきます。</p> <p>○地域住民同士で支え合い、多様化するニーズに対応するため、地域福祉の担い手の育成・確保を図ります。</p> <p>○市民一人一人が共に支え合い、安心して生活できる環境づくりに取り組めます。</p>

R5施策評価で各部局から出された課題と目指すべき方向性（参考）	追加すべき課題（第1回分科会での御意見）	課題（案）	課題（案）から整理した目指すべき方向性（案）
<p>○課題 生活困窮者の自立支援については、引き続き、関係機関と連携しながら、生活支援や就労支援等を行い、自立の促進に取り組む必要があります。</p> <p>○目指すべき方向性 離職等による収入の減少を要因として、新たに生活保護を受給することとなった世帯については、保護開始直後から就労支援を行い、自立の促進が図られるよう積極的かつ重点的に支援を行います。</p>		<p>○本市の生活保護世帯数は、6,646世帯と高止まり状態にあり、令和4年度の市の保護率は29.82%となっており、国の保護率16.2%・県の保護率23.03%と比較して高い割合となっています。</p>	<p>○生活保護受給者の就労を支援するため、青森公共職業安定所などの関係機関との連携を図るとともに、就労支援相談員によるきめ細かな支援を行います。</p> <p>○生活保護に至る前の生活困窮者に対する相談体制の充実を図るとともに、自立の促進につなげるため、関係機関と連携し、生活支援や就労支援等を行います。</p>